
ひとりぼっちの竜

森宮 流架

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ひとりぼっちの竜

【Nコード】

N8465F

【作者名】

森宮 流架

【あらすじ】

竜は、いつもひとりぼっちでした。何故って――

ちいさな村のはずれに

一匹の おおきな竜が すんでいました。

竜は いつも ひとりぼっちでした。

なぜって

竜は とてもおおきくて

とても こわい顔をしていたのです。

だから

村の人たちは

わるい竜だときめつけて

だれひとり

竜をたずねては きませんでした。

だから竜は いつもひとりぼっちでした。

そんなある日のことです。

ひとりの女の子が

竜のところへやってきました。

女の子は まいごになってさまよっているうちに
つい 竜のところに たどりついてしまったのです。

女の子は びっくりしましたが
竜がとてもおとなしく
やさしいことがわかると
女の子は すっかり この竜がすきになりました。

竜と女の子は
日がくれるまで
木の実をたべたり
いずみであそんだりしました。

そして いつしかふたりは
つかれて ぐっすりねむってしまいました。

ちょうど そのころ
村では おおさわぎになっていました。

女の子が 森にはいったままもどってこない。

きつと竜に つかまってたべられてしまったのだろう。

きつと そうにちがいない。

あんないい子をたべてしまうなんて
なんてわるい竜なんだ。

村人たちは口々にさげびました。

そしてみんな

手に鉄砲や弓をもって

竜をたいじしようと

森へと はいっていきました。

村人たちが

竜のところまで来たとき

まだ竜も女の子も

ぐっすり ねむっていました。

それを見た 村人たちは

女の子が 死んでいるのだと思いました。

そして村人たちは

いつせいに 竜にむかって

鉄砲をうち、矢を射ました。

竜はびっくりしてとびおきました。

竜のうろこは

とても かたかったので

竜は けがは しなかったけれど

とてもかなしくなりました。

なぜ、みんなぼくを いじめるんだろう。

竜はひと声おおきくなくと

はねをひろげ 空へとんでいきました。

そして にどと もどつてはきませんでした。

女の子は竜のなく声で
目をさました。

そしてあわててとびおきると
なきながらみんなをとめました。

「竜はとてもやさしいのに
なぜみんな竜をいじめるの。」

女の子の話をきいて
村人たちは
自分たちのあやまちに 気がつきました。

けれど、竜は いってしまつたのです。

いまでも竜は ひとりぼっちで
どこかの空を さまよっているのかもしれない。

～ f i n ～

（後書き）

最後までご覧頂きありがとうございました。
ご感想等頂けると、とても嬉しいです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8465f/>

ひとりぼっちの竜

2010年11月28日05時59分発行